

35

旭日双鶴松竹梅図

荒木寛畝・野口小蘋

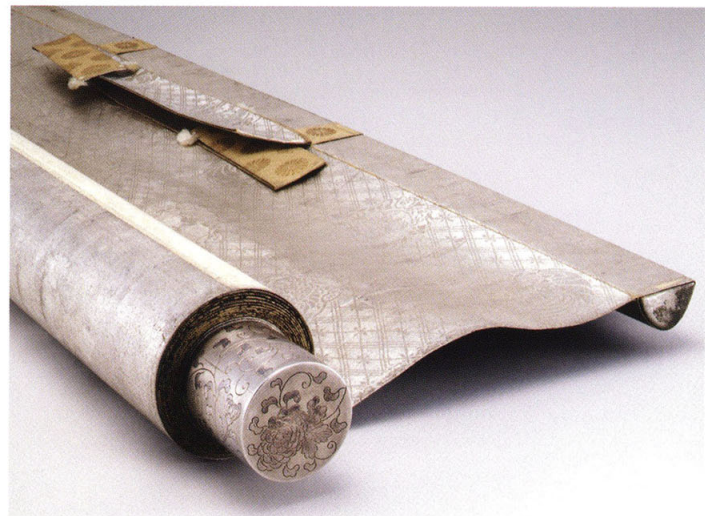
3幅対

明治27年(1894)

絹本着色 (右) 192.4 × 84.5 (中) 193.6 × 85.0 (左) 193.8 × 85.5

三の丸尚蔵館

会計検査院より献上された三幅対で、中幅には荒木寛畝(1831～1915)が旭日に照らされたつがいの鶴を描き、左右幅には野口小蘋(1847～1917)が歳寒三友と称される松竹梅を描く。この吉祥的な画題とともに、表具も銀婚式を意識して銀箔を押した綾地が上下に用いられ、軸首も銀鍍金が施された特殊なものである。



装丁の様子



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の御慶事 — 皇室の近代事始めとその歩み

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 80

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

制作 艸藝社

平成三十年四月二十八日発行

© 2018
The Archives and Mausolea Department
The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan
Imperial Household Agency